

令和6年度第1回大府市防災会議 議事録

日 時：令和7年1月24日（金）

10時00分～10時50分

場 所：大府市役所 全員協議会室

【 出席者 】（ ）内は代理者

会 長：岡村秀人市長

委 員：新美副市長、山口副市長、岸田卓己：知多県民事務所長、山本卓也：知多建設事務所長、中根恵美子：知多保健所健康支援課長、八木智：東海警察署長（杉浦）、間瀬恵：大府市総務部長、新矢満（岸本）：陸上自衛隊第10師団第35普通科連隊重迫撃砲中隊長、松山靖：大府市教育長、中倉謙二：大府市消防長、西脇香織：大府市消防団吉田分団代表、平見舞子：共和東自主防災会代表、小林暢一：中部電力パワーグリッド(株)緑営業所長、本多裕治：西日本電信電話(株)東海支店設備部部長、佐治奈己：大府商工会議所女性会会長、山本資恵：あいち知多農業協同組合大府支店副支店長、山口早苗：おおぶ防災ボランティア代表、池田美代子：日赤奉仕団代表、本田順子：DAIWA 防災学習センター代表

防災助言者：横田崇：愛知工業大学工学部土木工学科教授

本部員：長江敏文：企画政策部長、近藤真一：市民協働部長、猪飼健祐：福祉部長、中村浩：健康未来部長、伊藤宏和：都市整備部長、寺島晴彦：産業振興部長、福島智宏：水道部長、白濱久：会計管理者、浅田岩男：教育部長、鈴置繁雄：議会事務局長

事務局：近藤宏幸：危機管理課長、村瀬晋介：危機管理課防災危機管理係長、森本祐一郎：危機管理課防災危機管理係主任、竹村知紘：危機管理課防災危機管理係主事、平田建：危機管理課防災危機管理係防災専門員、深谷一紀：水緑公園課長

欠席者：入谷賢：東邦ガスネットワーク(株)東海営業所長、酒井佳恵：知多メディアネットワーク(株)地域情報部部長、森下俊哉：大府市医師団代表、阪野嘉代子：健康未来部参事

傍聴者：なし

議事

- 司会 危機管理課長
- 議長 会長

1 会長あいさつ

ご多忙のところ、大府市防災会議に出席いただき、感謝申し上げます。

本年度から、新たに2年任期として、委員を委嘱する。日頃から、それぞれの分野で、本市の防災行政、市民の安心安全のために力添えをいただいていることを心よりお礼を申し上げます。

昨年1月に発生した能登半島地震以降も、全国各地で地震が観測をされ、8月に発生した宮崎県日向灘を震源とする最大震度6弱の地震においては、運用開始以降初めて、南海トラフ地震臨時情報が発表された。本市も発表とともに災害対策本部を設置し、約1週間、警戒、情報収集等を行った。本年も1月13日に再び南海トラフ地震臨時情報が発表されたほか、1月15日には、地震調査委員会が、南海トラフ巨大地震の今後30年以内に発生する確率を、80パーセント程度に上げたことを受け、さらにしっかりと対策を講じていかななくてはならないと感じている。

本市では、大規模災害に備えるため、食料や資機材の備蓄、避難所となる小中学校の体育館全てにLPガスを使用した空調を設置しており、都市ガスや電気が遮断された場合でも使用できるように対応を行っている。また、体育館のトイレについても、高齢者の方も対応できるよう、洋式化を図ってきた。さらに、社会福祉施設等と協定を結び、直接福祉避難所に避難できるようになるほか、愛三文化会館を改修し、各宿泊室にお風呂を設置することで、福祉避難所として使用できる取組を進めている。

本日の議題は、地震や風水害対策について重要な計画となる地域防災計画、水防計画の見直しについてご審議の程お願いする。

なお、審議会委員の女性登用率は47.8パーセントで、全国でも非常に高く、防災会議に女性の方の意見をしっかりと反映させていきたいので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

最後に、防災助言者の愛知工業大学横田教授からもアドバイスをいただきながら進めていくので、よろしくようお願い申し上げます。

2 報告事項

令和6年度防災事業報告について
事務局及び関係本部員による資料説明

【防災助言者】

住宅の耐震改修について、対象数と目標年数などの全体像はどうか。

【都市整備部長】

木造住宅は約19,000戸のうち、耐震性が無いと判断されている住宅が2,680戸、85.8パーセントの耐震化率となっている。非木造住宅も含めると34,230戸あり、全体では耐震化率91.8パーセントとなっている。高齢者の中には、危険と分かりながらも改修を行うつもりがない方がいるが、能登半島地震以降、昨

年度実績を超える耐震の無料診断を実施している。

【防災助言者】

学校における防災教育について、こどもから各家庭へどのくらい反映されているかの成果を見える形でまとめていただきたい。

【危機管理課長】

啓発の中で学んだことを各家庭で話すことや、防災ガイドブックを使用して、家族で話し合うなどの取り組みにより、家族へ反映されるよう努めている。

【防災助言者】

能登半島での事例において、高齢者宅に子や孫が集まっていた時に地震が発生し、子や孫が亡くなったことがあった。耐震化についてあまり費用がかからない方法を提案するのも良い。また、空き家についても、交通の妨げや火災の発生元にもなり得るので空き家対策も検討してほしい。

3 協議事項

(1) 大府市地域防災計画の修正について

事務局による資料説明

【質疑など】

なし

【会長】

本件について、ご承認にご異議無いようなので、協議事項（1）については、ご承認いただいたものと認める。

(2) 大府市水防計画の変更について

事務局による資料説明

【質疑など】

なし

【会長】

本件について、ご承認にご異議無いようなので、協議事項（2）については、ご承認いただいたものと認める。

4 防災助言者講話

阪神淡路大震災以降、住宅の耐震化の重要性が強調されてきたが、昨年の能登半島地震で、充分進んでいないことが確認された。高齢者の方に対してどのように促していくかという課題については、理解を得て、助成や安価な方法での耐震化を考え、周知していくことが重要になる。

水道、トイレも非常に大きな課題で、上下水道の対策も考える必要がある。能登半島のように日本各地からの支援が、現地になかなか行き届かない状況になることがある。南海トラフ地震が起こると、多くの地域が被災し、多くの被災者に対して、支援が期待できないことを考えると、自分たちの地域は自分たちで守るということ

を、改めて意識し、地震が発生しても大丈夫、耐震化もできている、被災した人たちを支援できるという形で対応できるように、計画を見直し、自助共助の中での協力を得て進める必要がある。

また、南海トラフ地震臨時情報が、昨年8月と本年1月に発表されたが、臨時情報についての認知度が低く、テレビ等で放送されたことで多くの方が知ることとなった。臨時情報の後、市民が地震対策について何かしたかというところ、あまりできておらず、地震が発生することが怖いと思った人は多かったが、その人たちの中でも、何かした方は少なく、家具固定や耐震化、事前の備えをどのように進めていくかは非常に大きな課題である。

南海トラフ地震臨時情報は、「南海トラフ巨大地震の発生の確率が普段よりは高まっているので、念のために注意をしてください」というものであり、この間に発生する可能性は低い。言い方を変えると、いつ起こるか分からないので、対策がもっと必要になるということで臨時情報が発表される。発表されてからではなく、日頃から地震対策を行い、臨時情報が出たときには改めて地震対策をチェックするという形を望んでいる。臨時情報の発表が無くても年に1回は必ずチェックするよう、皆さんで取り組んでいただきたい。

(閉会)